

Title	弓ヶ濱砂嘴の地學的瞥見
Author(s)	下間, 忠夫
Citation	地球 (1926), 5(4): 379-383
Issue Date	1926-04-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/183078">http://hdl.handle.net/2433/183078</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

狭少をかこちつゝある現代にとつて何物を暗示する。今日では開墾助成策などを樹て、耕地の擴張に力めて居るが、商工業、交通業發達の爲めにつぶさるゝ耕地面積の方が、漸に開拓せらるるものよりも多大である。又村落の膨張によつて良好なる村落の塞がれつゝある事も之れ亦莫大なものである。若し津山藩の爲政者をして今日の日本にあらしめたならばどうであらう。

## 弓ヶ濱砂嘴の地學的瞥見

下 間 忠 夫

弓ヶ濱（又は夜見ヶ濱）は出雲の北部の宍道湖より松江を通り中海に及ぶ東西の方向に存在する地溝狀低窪地の東縁を劃するもので美保灣と中海の間に東南より西北に向ふ一大砂嘴である。その延長は日野川の河口より大約一七軒、幅はその基部と先端では殆ど四軒に近く中央の部分では二軒半を示してゐる。而して美保灣に

この種の村落には一定の補償金を與へて悉く山麓に移轉せしめ、大なる農民アパートメントを建設し、之より田野に通ずる道路を敷設し、田野の中央に一大農場を設け、馬車自動車で朝夕農民を農場に送還し、以て共同經營をなさしむるが如き事も敢えて辭せなかつたであらう。

附記 本研究に關して矢吹金一耶氏はその秘藏の珍書閱覽を容され、種々の示教を與へられたる事に對して深く感謝す。

向つて多少曲てゐる。ジョンソンの所謂ミッドベイバー (mid-bay bar) に相當するであらう。その地形から弓ヶ濱の名稱は與へられてゐるのだらうが別名夜見ヶ濱の名はこの砂嘴が主としてその材料の供給者である日野川上流地方の中國山脈の花崗岩砂で作られてゐるので内海地方の白砂青松の景色その儘を示し月光の清らかな

夜等島根半島の先端にある關の五本松の邊から眺めた夜景はその上に鏈村狀に發達した聚落の燈火と背後に聳ゆる出雲富士と共に一段と引き立つので斯くは呼ばれたのであらう。

順序として砂嘴の成因を簡單に考へて見ることにする。この一大突堤の建設にあたり或は出雲風土記の國引の卷を御引合に出す必要があるかも知れぬが今はこれに觸れぬことにして日野川とこの地方の卓越風とはその主要なるフアクトルであつて更に材料として中國山脈を構成する花崗岩の風化した砂が使用された事も特筆する必要がある。境測候所の明治十九年より大正四年までの風向の統計を見ても八、十一、十二の月を除いては大部分北又は北東の風が多くて日野川より流出される土砂は暫く偏東風と北風の共同の力で海岸線に並行に西に運ばれて行くがその北方に東西の方向に横はり、二、三百米の高度を持つ島根半島の爲に北風は漸次弱められて砂洲は偏東風の獨占的の威力でそれに直角に近く發達して現在の地形を呈するに至つた

のであらう。更に注意すべき問題は然らば何故に中海の東南隅に幅二、三稜の入海を残したかと云ふ疑問であるがそれは米子町から砂嘴の内側に沿ひて二稜の安倍、三稜の彦名村附近に砂丘の間に露出してゐる石英粗面岩の岩盤に仍つて解決され得ると思ふ。即ち砂嘴建設の以前に粟島と云ふ前記岩類の噴出による小島が砂の脚場となつてそれ以南に土砂が運ばれなかつたものと思はれる。第二の問題は然らば何故砂嘴は完全に島根半島に連結しないかと云ふ事であるが中海美保灣は傾動ブロックの疑を有する宍道湖と共に南方に淺く北方に深くなつてゐる。この深度の大きい事と一つには三、四節の水速を有する潮流の爲に僅々三〇〇米の幅を持つた中江瀬戸を半島との間に保ち得たと思はれる。現在は砂嘴は特に半島の海岸線に平行に境港より東方に向つて發達する傾向を示してゐる史實によれば文久三年に境港の東方の汀に接近して建造された池田藩の臺場が現在は既に二〇〇米近くも汀線を離れてゐると云ふ。この運動

は美保灣の水面以下にも強く働いて境開港場の外港としての價値が年々失はれて行く事實にも吾等は考察する事が出来る。斯の様に砂嘴の先端が東西に擴張してゐる事は潮流デルタ (Tide Delta) の生成で説明が出来るかも知れん。兎に角この砂嘴は基部より先端へ内海側より外海側へと新成された事は容易に肯定され得る。

次にこの砂嘴に於ける人文現象を考察する。最近に筆者は出雲北部一帯の人口密度圖を各村別に構成して見たが意外にもこの砂嘴上の村落の密度を示してゐることに驚いた。一平方里につき八乃至九〇〇〇人を現はしてゐる。特にその先端では一萬以上に及んでゐる。今その聚落を觀察するに通路に沿ひて鍾村狀に發達するが第二次的に主要道路に直角の方向に進み行く傾向を示してゐる。砂嘴上の主要道路は米子町より境港に至る縣道と達路の二條がある。前者は砂嘴の外側に近く初は汀線より數軒を離れてゐるが先端に近づくに従つて海岸に接近して來

る。後者は内側即ち中海の岸に近く略同様な間隔を保つて境の方に近づいて行くが此又汀線より四、五百米乃至一軒も離れた地域を通過してゐる。聚落もこの通路に沿ひて大體二條の聚落線を作つてゐる。砂嘴はその成因上東北に新しく、中海沿岸は既に埋立工事等をして水田が相當に開けてゐる。この方面の交通線と聚落線は初から濕潤な地域を避けて相當海岸線より離れてゐたでもあらうが埋立事業の爲一層と汀線より隔たつて來たのである。

若し海が深いならば小さい港としての聚落も出来るであらうが埋立工事が出来程淺いからそれも望めぬわけである。土地は東北に近い程濕性を失つて多くは畑となつて麥畑や桑畑が續いてゐる、その東北縁を劃して縣道に沿ふ主要聚落が發達しその風上は黒松の防風林によつて遮られ且つ砂丘の侵入を防禦してゐる。然して防風林の外側は所謂吹上の濱である。注意すべきはこの東方の通路は境に近づくに従つて美保灣に接近してゐることである。これは半島の爲

に北風が、その麓に近づくにつれて弱くなつて来るからで、又防風林地域も著しく狭くなつて行くのが分る。米子より山陰本線に分れた境線はこの二條の通路の中間を境に進んでゐる。土地の性質上その大部分の耕地は畑で殊に住民はこれを桑園としてゐるので郡の統計によつても米の收穫は他の村落の五、六分の一に過ぎぬが麥は略平衡状態を示し養蠶は米と反對に五、六倍の収益を見せてゐる。それで主産業は養蠶業であるから聚落は散村型を採らないのであらう。尙ほ耕地の灌溉用として人工的に日野川より米川及び新開川といふ溝渠を砂嘴の中央に導きたることに注意する價值がある。

次に砂嘴の基部に發達した米子町及びその先端にある境港について述べる。前者は水陸交通の要所に當つてゐる。特に南方の山地と中海沿岸の各地の連結點として將又弓ヶ濱砂嘴上の各聚落の主要生産物たる繭を原料とする製絲業の起る等一面に港市として他面に工業都市として近來著しい發達を示してゐる。後者は舊藩時代

より出雲北部の門戸として裏日本西部で最も生産價值の豊かなヒンターランドを有して發達した開港場であるが山陰本線開通の爲に内海貿易の減少を來し他方に砂嘴の移動に基いて外港は最近十八年間に約四尺淺くなつてゐるので港灣の價值が次第に降つて行きつゝある。時々浚渫されてはゐるが大自然の力には抗すべくも無い。然し乍ら去る大正十一年より向ふ五ヶ年の計畫でこの港の修築工事が着手されてゐるから竣工の曉には三千噸級の船舶四隻同時に荷役が出来る様になるし且つ北朝鮮に於ける吉會線、平元線の開通は伯備線の開通と相俟つて我が大連航路の豆粕、大豆等の内地輸送を可成りの程度まで奪ふであらうと、樂觀且つ期待されてゐる。然し現在では單に隱岐、鬱陵島及び附近の内地航路の基點をなすわけで外國貿易としては主として輸入港で大豆粕を主とし石油、大豆等を輸入してゐる。豆粕は砂嘴は勿論北出雲一帶の農作の爲に消費され石油は附近の漁船の燃料となるものが多い。輸出額は輸入額の百分の一

内外で取るに足らない。それで弓ヶ濱の養蠶業によつて得たる繭は大半米子町で生絲と化し山陰線經由で京阪地方に送られる。要するに砂嘴等と曰へば多くの場合砂丘の遠く連つた荒地を想像し直接に經濟地理學からは殆ど論ずるに足らない様に吾等を思はせやすいが、人口密度の高い而して生産能力に富むよしんば、それが人工を加へて克ち得たものとしても此の砂嘴上の人文は記述に足るものと考えられる。

### ○東洋拓殖株式會社の

#### 水利開墾の近況

- 一、黄海道鳳山郡舍人面 劍川里所在約百十八町歩は年々旱水害を蒙りつゝあるを以て防水堤防及灌漑工事を施行すべく大正十三年十月起工、同十四年六月之を竣工せり。
- 二、全羅北道益山郡五山面 木川里所在三百三十町歩は年々旱害を蒙るを以て之を改良し併て耕地整理を施すべく之を二期工事に分ち其の第一期工事として約百三十五町歩の改良を計るべく大正十四年五月起工、同六月竣工。

弓ヶ濱砂嘴の地學的瞥見

三、慶尙南道密陽郡下南面 約五十五町歩は大部分田なりしものを改耕すると共に耕地整理を施行すべく大正十四年五月起工同年六月竣工。

四、慶尙南道梁山郡上西面 會山里所在約六十町歩は灌排の施設不充なるを以て之を改良し併て耕地整理を施行すべく大正十四年四月起工、同年五月竣工。

五、平安南道大同郡大同江面 船橋里所在田約八十町歩は朝鮮電氣興業株式會社使用の餘水を利用するときは僅に之が改耕を爲し得ることを確かめしに依り先づ第一期工事として約四十六町歩の改耕を爲すべく大正十四年四月起工、同年六月竣工。

六、黄海道鳳山郡沙里院面 景岩里所在約二十五町歩は年々旱害を蒙るを以て之を改良すべく大正十四年五月起工、同年六月竣工。

七、大正十三年度に於て千濁地工事實施準備中のもの三箇所千三百六十町歩、實施設計を爲し又は調査を施せる水利組合大小十二箇所其の面積三萬二千四十一町歩を算す。